

一人

子

日

音

一

向

寶曆

市

市

人

浦

小

市

市

市

市

日 月 日

師
何
前

都七付

内坂

中

組

長
平

日 月

興
平

高

中

同

新

一

一

同
百
人
男

一
善
中
福
寺

何子平

一
澆
子
動

遊

一
煙土

一
富
仕

然野堂

神

觀音
但之石佛

往

八

朱光昭

五

五

三

王右軍

14

重刊

歌

一山神文

一
居
は

新山堂

一
歷
年

神代山ヤミホ仙北と境名所馬山と京都
獻山知石佛市溪園主神代秋月

的商

二
清風

市

二
伍拾五

一 大目堂

一 山神社

一 堀之池

自代出境、向郷中、東、西、

切、石、町、坂、市、村、新、村、境、切、町、

右、町、同、町、町、町、町、町、

江、野、金

之、院

之、院

之、院

今、有、金、在、此、

一 高、山、山、山、山、山、山、

一 同、山、山、山、山、山、

一 山、山、山、山、山、

一 人、山、山、山、山、

一 善、山、山、山、山、

南村の海の風景

室山院

一 祈願

一 庭園

正源坊

一 行看

西海

河之内山洋動保の寺方といふ

一 洋動保の寺方といふ此の寺は

昔は持山の幅の寺なり神代門

向田端の角鬼澤の但江の坂村

昔は保名寺といふ内村の境なり

新庄の村

地之主事なり先年田圃より
是の寺に常とて寺といふ

一 東より西へ道あり河の北

河の道落着長根の河の中屋敷なる地

南の道四但し河の末は古堰あり

一 新庄の寺なり今より古殿より

合掌の殿なり今より久しき寺なり

一 村鎮寺 法勤堂

一 天神 文

一 田神 文

一 白山堂

一 山神 文

一 山神 文

一 山神 文

列高

寶善院

列高

門人

列高

正源坊

列高

丹主師

列高

重主師

列高

金主師

列高

法主師

列高

一 山神 文

西田

一 山主堂

一 山神 文

一 東ノ神

一 山神

一 山神

一 山神

小田原寺 法勤堂

列高

化主師

列高

大主師

列高

正源坊

列高

源主師

門人

列高

勸主師

列高

法主師

自化所境東地

中山村

市也

市也

細民

市也

市也

市也

高武所境東地

一 同羅所境東地

一 家親所境東地

一 人親所境東地

一 善院所境東地

一 城所境東地

一 國基所境東地

一 史光所境東地

此山之名遠近信譽山國道之

文源之甲午拾月廿八日

雄山英公居士 今年三十四年

楠方殊公大姉 年長月日

光山妙月大姉 寛文七年 未十月二日

妙月大姉 仁愛保善庫以修

光康云一人勇るる方打

依く来云光康云武勇為國

明平光康云坂上修

信月大姉云云使を乃

光康云云云云仁保

初由理部光康云云云

光康云云云云云

光康云云云云云

減てゝのゝふふ

一 唐長飯 飯と石相ふ

石

一 茅師堂 一村と海守

常福院

一 月山堂

日人

一 立石觀音

日人

一 立石觀音 石佛と神と石と史と

一 長と寺と石と寺と石と寺と寺と

一 横江寺 佛と澤と山と寺と

一 寺と寺と寺と寺と寺と寺と

一 境と寺と寺と

一 寺と寺と

寺

一 保良社

寺と寺と

一 山神

作十郎

一 不動

寺と寺と

一 ^{ナニウ}山神

一 ^リ山神

一 ^池山神

一 ^貝山神

一 觀音堂

一 山神

一 觀音堂

久

文

洋

八

千

日

興

自代河院

八松村

物

其

平

一 高

一 同様五七廿六等名

新田

一 家約書之類

一 町書目録之類 町 百六人男 百六人女

一 善後所之建之福之類

一 祈願

市福院

一 福之類

福 長吉寺

一 福之類 長吉寺之福之類

一 甲子之類

甲子 長吉寺

傳之云澤倉町代由理八所建之類

有之何之類 澤倉町之類

乃之來概尔福之類

之武土之類 乃之來概尔福之類

服之類 乃之來概尔福之類

概尔福之類 乃之來概尔福之類

[illegible]

沙
 雖
 牙
 心
 系
 都
 高
 明
 列
 星
 明
 律
 心
 額
 心
 外
 明
 列
 星
 明
 律
 心

不水同地新入院記

垂老矣今夕之宴
 宴竟會星明神
 尚久星為代星
 星是星

神明宮

定

地神



一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ
 一 神カミ 明アキラ 文フミ

神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ
 神カミ 明アキラ 文フミ

自ヨリ 紀キ 院エン 末マタ 年ネン 久キウ
 松澤村

山

山

伊イ 豆マメ 山ヤマ
 伊イ 豆マメ 山ヤマ
 伊イ 豆マメ 山ヤマ
 伊イ 豆マメ 山ヤマ

一 同ドウ 接ケツ 之ノ 石イシ 寺テ 宇ウ 重ヘ 谷ヤ
 一 同ドウ 接ケツ 之ノ 石イシ 寺テ 宇ウ 重ヘ 谷ヤ

新シン 田タ
 新シン 田タ
 新シン 田タ
 新シン 田タ

一 定数に宿新

一 人音或信人 門 百二宿人男
百二宿人女

一 善提和得宗祥書のこま集の書

一 新撰島海山庭院の書院

一 山館

兵庫津所居館と書く

一 大板澤之林西幅切北の梨の書院

移住

一 東の幅切南の書院

一 松尾村の幅切南の書院

一 しののけの幅切南の書院

一 澤の幅切北の西屋の書院

一 西の幅切南の書院

一 観音堂

明子院

一 島海山庭院の書院

中尊聖觀音菩薩

一 水神

列高

明王院

長谷寺

一 今明保多院

列高

明王院

一 龍王

列高

明王院

一 花領山

明王院

一 稻荷寺

明王院

一 地蔵堂

一 東神

一 稻荷

一 山神

一 月山

一 山神

一 古河王社

古物

古物

八物

八物

八物

八物

八物

大山神
 金山神
 東山神
 山神
 日台
 稻台
 山神

石
 長
 市
 德
 大
 子

大山神
 金山神
 東山神
 山神
 日台
 稻台
 山神

石
 長
 市
 德
 大
 子

文臣師

日人

清臣師

文臣師

清臣師

長清

清

金井神

辨賊天

金井神

金井神

八幡文

新物為上

川東村

小卷

綴

月

新屋

高橋久

同指

一 本邦指寺

一 本邦指寺

日 本邦指寺 男 女

一 善提所 高建寺 祥雲寺

一 新 山院 常福院

一 人 館 館主 和

一 人 日堂

一 果 神

新 寺 山 院

一 山 神

一 羊 師 堂

一 車 井 神

一 白 山 堂

一 神 明 堂

一 不 動

一 大 日 堂

日 人

日 人

日 人

日 人

日 人

日 人

日 人

一
歲
仲

卷之五

門東府中松溪之林

吉境東ハ東ノ役門切南ハ洞名ト根切
西ハ鼻ノ切北ハ鼻ノ切

ふい 鼻の口切り 北の鼻の口切

來江村

一

之浦江

卷五

物志

吾子師

五言古詩卷之四

同治七年秋
新田

必救撫之

金
日
女

善從所之達乎福之止於

寺

山
十一面觀音堂

南法華堂

大石佛之昔中寺之山名之寺
但心其後山名之寺
大石佛之昔中寺之山名之寺
但心其後山名之寺
大石佛之昔中寺之山名之寺
但心其後山名之寺
大石佛之昔中寺之山名之寺
但心其後山名之寺

經年以來堂此處之重建之百年金
法華堂之義新寺師代再興之金
通化名之寺

一 稻荷堂

一 堰神堂

一 山神

一 白山堂

日人 日人 日人 日人

一 ^{この年}神明文

一 ^{りふ}来神

一 ^{りふ}虚空花書

一 ^{りふ}觀名堂

一 ^{りふ}山神

一 觀音

一 穀物留に汁はくしに記し置ける

道 伯

門 人

治 人

六 人

与 人

為 人

お 人

一本立村立林中央根南、河内東、八村

河内根南、河内東、河内北、河内南、

河内東、河内南、河内北、河内南、

中山、八村、根南、一本立村

一本立村、一本立村、一本立村、一本立村、

一本立村、一本立村、一本立村、一本立村、

一本立村、一本立村、一本立村、一本立村、

一、德一、孝、忠、信、義、廉、恥、

為地瀕江顧主名山之水王卿

林氏新編自由工學商業山

業
如
月
之
心
之
紙
如
平
如
乃

不
本立村
本立村
治部省
企
押

五月七日 奉 方 林 小 郭 啟

中江大橋押見新町蔵行余村止印果
山崎為右衛門氏藏

前日性遠感
一山
瑞峰
為

山陰沈氏

商

恒溪乃黃

湧沃如黃

三

七

海東先生

本在村江部也
乙巳年正月

六鄉信實寺

謝氏

齊村

明倫堂
國子監
十月

七

秘傳

物類

卷之四
帝紀

江秦以所

右通之所信有江蘇

一書明國大府村

評定亦

多王乃也

江蘇

江蘇
人判
將判
前判
出判

江蘇

一江蘇

今日海濱... 丁卯年

...

法皇... 列... 列... 列... 列... 列...

...

...

...

...

...

...

...

河内

河内

河内

河内

一龍江村山論月双石之今海星江之

水如月之中和遠南江海星江之

水如月之中和遠南江海星江之

海星江之中和遠南江海星江之

河内

河内

河内

河内

河内

河内

右為接代以治新物為新物為明
曆之平西日與之平一為平
百三二己亥年七月廿二日為平
之平初八日為平之平之平
中平平平平平平平平平平
中平平平平平平平平平平
中平平平平平平平平平平
中平平平平平平平平平平

作部助流之書法同乃任心證又云
 有之事如心心山世世以月之我
 之人於此流より其より下由其順
 如如の付流文證下より右の如
 極なる如如の如古本之年より事
 自其相見は結して前後よりわらうと
 是なり

予嘗思之夫時月留坂下新
中八校指瑞松氏在予八村
之北七年中在豐事殿可也
游溪鄉八游溪鄉八村
之北七年中在豐事殿可也
予嘗思之夫時月留坂下新
中八校指瑞松氏在予八村
之北七年中在豐事殿可也

昔姓一屋時之予也
予嘗思之夫時月留坂下新
中八校指瑞松氏在予八村
之北七年中在豐事殿可也
予嘗思之夫時月留坂下新
中八校指瑞松氏在予八村
之北七年中在豐事殿可也

一 游溪鄉八村
之北七年中在豐事殿可也

之石と既述の境目より東に
 流るる河に於て

中

一為願之也。日昔持此。今之。事。一。ハ
 任。之。様。の。家。に。充。た。る。は。主。事。ハ。月
 山。源。氏。の。子。也。山。源。氏。の。子。ハ。仁。孝。の。心。

是年九月
 田畑
 夫
 是年
 事
 是年
 是年

一 王様月三日に東宮の御方海に参上
立上り給へり
中記

一 王様月三日に東宮の御方海に参上
立上り給へり
中記

一 王様月三日に東宮の御方海に参上
立上り給へり
中記

夫時之百姓而為之

一之政之政而為之

何事之何事之何事之

之何事之何事之何事之

是也之何事之何事之

山之何事之何事之

山之何事之何事之

石之何事之何事之

山之何事之何事之

山之何事之何事之

山之何事之何事之

山之何事之何事之

山之何事之何事之

明應四年正月一日

近奉の所様

石門山房年所裁許由海濱見
一市裏書古也

羽列勝以頌國夫語頌山論事
所實鑒之今乃為金使松平重幸
英法乃勝頌松平重幸與松平重幸
酒井持清與松平重幸松平重幸
之身今余識之矣

運之依給是境自松平重幸
之也一松平重幸之松平重幸
而加松平重幸相松平重幸
仲

石門山房
七月廿二日

澤屋判
治屋判
花屋判
備前判

阿波判
河内判
多摩判
豊後判
伴豆判

一 本年の國元書狀由事永く此の如く
中山の秋拾遺本と云ふに難用漢書漢書

一 本等乃西郷の坂より新庄拾遺本合
乃の傳りたる是書は西郷
一 此本より西郷の書は西郷の
遊りや六郷の書は西郷の
屋好地より西郷の書は西郷の
山より西郷の書は西郷の
乃の傳りたる是書は西郷の

一 谷比沢ノミナリ林北ノ山崎ノ根ノ東ノ谷
比沢ノ南ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
西ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
右ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
左ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
右ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
左ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ

他所ノ境ノ郷ノ境

一 西ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
右ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
左ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
右ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
左ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
右ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ
左ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ東ノ山崎ノ根ノ

又のりき地部東金屋根の根の
年 光輝六卿南領二境より
北貝喰のりき根のりき根のりき根の
りき又のりき二境合勢月名見
色一中庄境の石比川の境境の
押月名境のりき境のりき根のりき
揚石境のりき境のりき境のりき根のりき

大東より仁愛保境のりき根のりき
りき境のりき境のりき境のりき
本坂東より境のりき境のりき境のりき
右の境古東境のりき山論の境のりき
境のりき境のりき境のりき境のりき
市郷中より入る
一城のりき境のりき境のりき境のりき

田邊下門京村國中村之林之流之松城
 七日之林城城切又之其原之其為之
 今大松原之東之其八坂之其原之其
 通切城切七日之松原之其原之其
 坂之其原之其原之其原之其原之其
 向鄉留地之其原之其原之其原之其
 今其原之其原之其原之其原之其

一 高谷千吉之其原之其原之其原之其
 一 日其原之其原之其原之其原之其
 一 其原之其原之其原之其原之其原之其
 一 其原之其原之其原之其原之其原之其
 一 其原之其原之其原之其原之其原之其

月
 高谷千吉之其原之其原之其原之其
 高谷千吉之其原之其原之其原之其